

令和 6 年度 第 1 回御殿場市総合教育会議

日時

令和 6 年 8 月 3 0 日（金）午後 2 時 3 0 分から午後 4 時 0 0 分まで

場所

御殿場市役所 東館 2 0 1 ～ 2 0 3 会議室

出席者

御殿場市長	勝又 正美	教育長	勝亦 重夫
教育委員	勝又 英和	教育委員	杉山 ゆかり
教育委員	大西 孝明	教育委員	渡邊 直子
教育委員	長田 光男		

陪席者

教育部長	教育総務課長
教育施設課長	学校教育課主席指導主事
社会教育課長	社会教育課図書館長
学校給食課長	学校教育課指導主事
西学校給食センター所長兼高根学校給食センター所長	

教育総務課参事	教育総務課副参事
学校教育課課長補佐	社会教育課課長補佐
学校給食課副参事	
教育総務課副参事	教育総務課主任
教育総務課主任	教育総務課主事

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
 - ① 休日の部活動の地域移行について
 - ② 学校と地域等の連携・協働の在り方
- 5 閉会

1 開会

教育総務課長（進行）

本日はお忙しい中、また雨の中お集まりいただき、ありがとうございます。
定刻になりましたので、ただ今から令和6年度第1回総合教育会議を開催します。
全体の進行は教育総務課の山崎が務めさせていただきます。よろしくお願いします。
会議は次第に沿って進めさせていただきます。
それでは、次第の2「市長挨拶」、市長お願いします。

2 市長挨拶

市長

皆さん、こんにちは。台風の接近と共に足元が悪くなってきておりますが、今年度第1回の総合教育会議へご出席いただき、ありがとうございます。

暑かった夏休みが終わり、2学期が始まったところですが、予測しきれない台風が日本全国を巡っております。このため、今週末のイベントは、雨天の影響により中止や延期を余儀なくされました。とはいえ、夏には多くの行事が開催され、各地区の農業祭や歩行者天国などには、小学生、中学生を含む多くの人々が参加し、各イベントは大いに盛り上がりました。子どもたちの元気な姿が見られ、元気が戻ったと実感できた夏となりました。

また今週も、子ども環境会議という行事が開催されました。これは、中学生が環境問題を考え、市長や議長に対し提言するというものです。行政への関心を持ち、社会参加をする若い人々が増えていることは非常に喜ばしいことです。

本日の総合教育会議では、二つのテーマに分けて、教育委員の皆様と意見交換を行います。それぞれのテーマについて、気軽に、そして率直な意見をお寄せいただければと思います。どうかよろしくお願い申し上げます。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、次第の3「教育長挨拶」、教育長お願いします。

3 教育長挨拶

教育長

皆さん、こんにちは。本日は、総合教育会議にご参加いただき、ありがとうございます。

新しい教育委員会の制度が導入されてから、約 10 年が経過しました。その新制度の目玉の一つが、市長と教育委員が教育施策について協議する総合教育会議です。この総合教育会議は、非常に重要な会議となっております。全国の平均では、年間約 1.3 回の開催ですが、御殿場市では年間 2 回の開催を維持しております。これは市長部局と教育委員会の連携がしっかりと行われている証拠だと感じております。

昨日から小中学校では 2 学期がスタートしました。長い夏休み期間である 36 日間が終わり、ペースを取り戻すのはなかなか難しいとは思いますが、この 2 学期は子どもたちが様々な体験を通じて活動し、成長する大切な時期です。各学校での教育活動が充実し、子どもたちが健やかに成長することを心から願っております。

本日の議題は、「休日の部活動の地域移行について」と、「学校と地域等の連携・協働の方向性」の二つです。

これら二つの議題が重要となる背景には、現在急速に進行している少子高齢化という社会の構造変化があります。少子化の影響で多くの学校では学校規模が縮小し、部活動もその影響を受けています。種目によっては、部員を確保できず、充実した活動が行えない、あるいは試合に出場できないという状況が生じています。

中学生にとって、部活動は技術の向上だけでなく、人間関係の大切さを学んだり、困難に立ち向かう勇気を養う場として、非常に大切な役割を果たしています。しかし、先に述べた社会状況の変化により、長年培われた部活動の形を変えずに継続することは困難になってきています。このような状況下で、子どもたちのスポーツ活動や文化活動を続けさせていくためには、新しい形の部活動のあり方を模索する必要があります。

二つ目の議題である、学校と地域の連携・協働についてですが、本市では令和 3 年度より富士岡中学校をコミュニティスクールに指定し、令和 9 年度までに市内全ての小・中学校でコミュニティスクールを導入する予定です。このような取り組みは、高齢化による地域の担い手不足に対する解決策として、貢献できると考えています。コミュニティスクールの推進は地域創りにもプラスの効果をもたらすと思っています。

何れにせよ、未来を担う子どもたちの健やかな成長を実現するには、地域の協力が不可欠です。御殿場市子ども条例の理念である「全社会が子どもを育てる」に基づき、そのための具体的な手立てを、今日の協議を通して見出すことができればと考えております。本日はよろしくお願いします。

4 協議事項

①休日の部活動の地域移行について

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

早速ですが、「4 協議事項」に移りたいと思います。

これからの進行につきましては、勝又市長よりよろしくお願いいたします。

市長

ここからは私の方で進行させていただきます。

それでは、協議事項①の「休日の部活動の地域移行について」を事務局より説明願います。

学校教育課主席指導主事

それでは、学校教育課より部活動の地域移行について説明させていただきます。大人の多くは部活動を経験し、その意義や効果を体験的に理解していらっしゃることと思います。そんな中、現在の学校での部活動を取り巻く課題を四つ挙げさせていただきます。

まず一つ目は、深刻化する少子化が進行し、部活動の持続可能性に厳しい影響を及ぼしている点です。近年の調査結果では、今後の6年間で市内の中学生が約300人減少すると予想されています。その結果、特にチームスポーツ等は部員数を確保することが困難となり、希望する部活動を持続することが難しくなっている学校が増えてきています。

二つ目の課題は、経験のない教員が部活動の指導を担当せざるを得ず、生徒が高度な指導を受けられない状況です。また、休日も含めた部活動指導が求められる一方で、教員には大きな業務負担が生じています。さらに顧問を複数名つけることが難しいため、生徒の安全確保が困難な状況も生じています。

そのような課題の中で部活動の地域移行におけるメリットを挙げますと、一つ目は子どもたちの選択肢が広がるという点です。二つ目は専門的な指導が受けやすくなることです。

そして三つ目は、教員の働き方改革推進につながるメリットがあります。

地域移行が重要視されるようになった背景を説明いたしますと、スポーツ庁や文化

庁からは令和５年度から７年度の３年間で改革集中期間として位置づけ、地域移行をプッシュする方針が示されました。また、県の方でも、学校設置者の取り組みを促す形で、同期間に学校部活動の地域連携や地域クラブ活動に関する協議会の設立が推奨されています。

これを受けて御殿場市では、令和４年度から本格的に動き出し、まず庁内での検討会を始め、教員や児童生徒へのアンケートを実施しました。昨年度は部活動の人数調査や学校へのヒアリングを進め、先進地域の視察も行いました。そして、本年度からは「御殿場市部活動地域移行推進懇話会」を開催し、具体的な移行に向けた取り組みを進めているところです。

また、今年度から部活動を任意加入制としました。お手元の資料の中ほどにある円グラフをご覧くださいと、部活動の参加率をご確認いただけます。現在部活動に参加している子どもたちは全体の８１％を占めています。外部団体に所属している子どもたちは１１％で、無所属の子どもたちは８％です。

最後に部活動の地域移行における課題について説明します。地域移行を進める中で次のような問題が考えられます。

一つ目は適任の部活動指導者や施設の確保が難しい点です。二つ目は家庭の経済的負担が増し、経済格差により子どものチャンスが平等でなくなる可能性があることです。三つ目は、平日と休日の指導者が変わることによって指導方針や方法が異なり、生徒への影響や学校の負担増が懸念されることです。四つ目は平日の部活動そのもののあり方を見直す必要が出てくる点です。

また、国や県は地域に適した地域移行の方法を目指していますが、地域ごとの移行後のビジョンやゴールが具体的にイメージしにくいという問題があります。さらに中体連との関係性も課題となっています。

以上が部活動の地域移行における概要と課題についての説明となります。

市長

ありがとうございました。地域移行が求められるようになった経緯や、そのメリットと課題、これまでの御殿場市の取り組みについて説明がありました。

こういったことを総合的に踏まえて、何でも結構ですので長田委員からご意見をいただきたいと思います。

長田委員

先ほど事務局から説明いただいた内容を少し踏み込んで、お話ししたいと思います。私としては、平日も含めて部活動の全部移行をするべきだと考えております。指導者が

変わることで生じるアンバランスについては説明されましたが、私はまず教員の働き方改革という観点が重要だと考えます。中学校の先生たちにとって 16 時半の勤務終了時間は現実的ではありません。授業終了後も 17 時過ぎまで部活動の指導を続けていると聞きます。平日に顧問活動を行っている限り、このような状況は避けられないと思います。働き方改革への本格的な取り組みを進めるためには、これを改善する必要があります。

検討を進めるうえで、まず確認したいことが、「地域」という言葉についてです。学校周辺の小さな意味での地域なのか、学校と地域という二つで分けた意味での大きな意味での地域なのかという点です。小さな地域という意味の場合には、部活動の地域移行は非常に無理が生じることと思います。

また、先生方に伺うと 16 時半以降は、授業の準備等の仕事はいくらでもあるという話をよく聞きます。そういう点も考慮すると、部活動と先生は、全てを切り離していくのが一番いいのではないかと思います。

そうすると学校は何をするのかという話になりますが、基本的にはスポーツを楽しむことを教えていくのはやっぱり学校であって、先生方には教科の時間を確保してもらって、授業をしっかりとやってもらうことが大切だと思います。

加えて、例えば民間のクラブチームへの移行には費用がかかる問題や、それによる格差問題、共働きの親たちは子どもの送迎にどのように対処するべきかという問題も浮上します。これらの問題を考慮すると、地域全体での対応が求められると思います。

一つの例として、市のハンドボール協会が運営しているハンドボールチームがあります。ハンドボール経験者の人たちが 50 歳ぐらいの時に、後継者を作ろうということで始めたと聞いております。

やはり、市が中心となって、スポーツに関する組織を少しずつ作っていく取組を進めていくことが重要だと思います。さらに、吹奏楽の例を挙げますと、楽器の数は非常に多く、一朝一夕で指導ができるものではありません。吹奏楽団体に協力を依頼し、的確な指導が可能な体制を構築してもらうことが良いのではないかと思います。

市長

ありがとうございました。杉山委員お願いします。

杉山委員

はい、よろしくお願いいたします。

私は今子どもが小学生なので、これから中学生になる子どもを持つ保護者として一番気になっているのは、今後の子どもたちの部活動が最終的にどういう形になってい

くのかなというところです。もちろん教員の働き方改革とか、多忙化対策というのは、進めていくべきだと理解しておりますが、そこで最終的に平日の部活動も地域移行していくという形になったときに、活動経費の負担ですとか、送迎の問題、その辺は保護者との合意形成を図っていく必要があるなと感じています。

高根中学校では、既に部の数が少なくなっていて、それぞれ男子でも女子でも運動部は二つずつしか残っていません。以前から、希望する部活動が選べないという声は多く聞くことができました。その点においては地域移行した場合、希望する活動が選べるようになるというのは大きなメリットになるのではないかなという期待もしています。

ただ、小規模校であるということで、自校だけで存続できる部活動が限られてくると思うので、そうなったときに、他の学校との合同部活動方式や、どこかのクラブなどに所属するとなった場合、その場所までやっぱり行かなければいけないとなると、土日に加えて平日の夕方、送迎ができるのかどうかというところが難しい問題なのかなと感じています。

あとは、会費の問題で従来の部活動費よりも高額になったときに、家庭による負担、経済力の格差が出てくるのではないかなというところで、現在は就学援助制度の補助対象品目の中でクラブ活動費、と明記されている中に中学の部活動も含まれると認識しておりますが、その活動が学校から離れて地域に移行したあと、経済的な支援がどういう形になるのかと、疑問に思っております。

市長

ありがとうございました。続いて大西委員よろしく申し上げます。

大西委員

私はサックス教室の講師もやっております、受講生の中には中学生もいます。

保護者から、やはり土日の部活動というのは、塾に通う生徒もいますし、また複数のお子さんがある家庭だと送迎の問題があるので、基本的には土日祝日は休みにしてほしいとの話を聞いております。

子どもの部活動に協力したいものの、生活環境や経済的状況から、対応したくても対応できないというのが、保護者の本音なのだと思います。

市長

ありがとうございました。では、勝又委員申し上げます。

よろしくお願いします。

私が教育委員になってからもそうですけれども、教職員の多忙化の問題について、なかなか解決が見えない、糸口が見えないという状況が続いております。部活も先ほどから話が出ていますように、やはり教師の負担っていうのはかなり大きくなっていると思います。

国としての考え方が、2027年から全国中学校体育大会実施競技の中で9種目を廃止していくということになってきまして、学校の部活というのは、ほどほどという言い方が合っているかどうかわかりませんが、ほどほどで良いのではないかと思います。

トップクラスのアスリートと言えるような子どもたちが、表敬訪問していることを、時々新聞で拝見をいたします。やはり選手の若年齢化というものもありますし、また今年はオリンピックもあったので、よくインタビュー記事が掲載されていました。そういった子どもたちが、いつから競技を始めたのかというと、5歳からとか中には3歳ぐらいから始めたという人もいます。

国としても、教師に専門的な知識を要求するのも大変ですし、多忙化の問題もあるので、まず部活の方はほどほどで、トップアスリートを目指すようなところ、ここはやはりクラブチームで、という考え方を暗に示しているのではないかなどに思いました。

もっとも、地方と都会ではやはり全然条件が違うと思います。都会では、ある程度の規模・数のクラブチームがあるので、選択肢が多いかもしれませんが、地方ではそういう環境が整っていません。

そうなってくると、将来子どもたちがアスリートを目指すということは、家庭教育の中で打ち出した方針として、子どもたちと関わり、会話しながら、じゃあ国内留学じゃないですけども、変更して、そっちへ行こうとか、または御殿場から離れて、そういうところへ移住しようとか、そういうことにもなってくるような気がします。

高校ですと、強豪校へ進学するなんてことは今までもありましたけども、それがだんだん若年齢化していき、小学校中学校でもそれが当たり前になってくるような時代が来るのかなどに思いました。

ありがとうございました。それでは、渡邊委員お願いします。

先生にとって、部活動のもっと良い形式は、どういう方法がいいのかなって思ったときに、いただいた資料の「部活動加入率」の表を見ると、任意加入の中でも、8割の生徒が加入しているという事実がある中で、部活動が始まる4時半までに、先生にしかできない仕事の時間を確保することが重要であると考えました。

学校の先生方じゃなくてもできる仕事が、学校には多々あるかと思うのですが、それを精査して、先生方にとって、より生徒さんと向き合う時間を確保することこそが大事かなと思います。

例えばテストの採点を、別の方に任せるとか、学校内で協力しながら、週に1回の部活動のチームカンファレンスを行い、お子さんたちの情報を交換し、様々な段階で、複数の人間が情報を共有することによって、先生ご自身のお子さんの通院であったり、親の介護であったり、例えば男性教諭の育児休暇などが取得しやすくなるなどの効果も期待できるのではないかなと思います。

また、スポーツ経験のない先生が顧問をしなければならない現状が課題としてありましたが、部活動に先生を合わせるのではなく、逆の発想で、先生の得意分野を部活動に反映させることも考えても良いと思います。スポーツでも、文化活動でも、それぞれ先生方が得意分野をお持ちだと思います。その先生方の得意とするところに生徒が希望するという形式です。

先ほどのお話にもありましたが、トップレベルで競技をしたいという生徒に対しては、クラブチームでの対応ということになろうかと思いますが、その送迎なんかを地域の方のボランティアで対応するとか、そういった地域との関係を作っていくことも良いと思います。

ありがとうございました。

「休日の部活動の地域移行について」というテーマに対し、自由にご意見をいただきました。それぞれの立場でいろんな疑問や意見が出ました。

確認の意味で、教育委員会の方に聞きたいことがあります。

まず、地域移行という言葉がありますが、学校に対する地域として使う地域とは、学校所在の地区ということなのかどうか。

また、これから推進改革をしていこうとしているのは、平日も含めた中で考えていることなのかどうか。

それではまず、地域という言葉の捉え方につきまして、小さな地区というレベルではなく、市内外も含めた学校以外のところという意味合いが強いと思います。そのため、御殿場市外の人であっても、御殿場市のために協力してくれる方がいれば、要請することもできると考えております。

次に、休日と平日についてですが、まず地域移行に関して、いきなり全てを変えていくことは困難であること、併せて働き方改革という視点から一番ネックとなっているのが、土日の教職員の勤務であるという点を考慮すると、まずは休日からというようなトライで考えております。

第1段階としては、まず土日の移行を優先して進め、土日の指導者との連携を図っていきながら、平日の部活動の運用を考えていくということになろうかと思います。

最終的には、全部移行となる可能性もありますし、平日は学校、土日は地域移行という方法もあるということです。

市長

地域移行をした場合には、保護者の経済的負担が増えることが考えられます。個人的には、子どもたちがすくすく育っていくためには、やっぱり公的な支援が必要なのではないかと思っているのですが、その辺の制度や方針が今時点でどうなっているのか確認させてください。

主席指導主事

地域移行で発生する経費につきましては、基本的には各自治体で考えるということになっております。県内の様子を見てみると、やはり受益者負担というようなことを考えている自治体が多いです。

つまり、塾と同じように学びたい子はお金を払って学び、やるやらないは各家庭の判断というような形が多くなっています。しかし、教育の公平の観点から見ると、なかなかどうなのかなと思います。それも含めて、今後、壁になってくる部分ではあると思います。

市長

ありがとうございました。

学校というものを、子どもたちを育てるという観点から考えたときに、地域での部活

動に移行したとしても、やっぱり教育に結びつく活動になると思います。

保護者の視点から、改めて杉山委員に経済的な負担等について、ご意見頂きたいです。

杉山委員

県内自治体の考えは、受益者負担というお考えとのことでしたが、お金を出す余裕がないご家庭の方たちが、やりたいけどやれないというような格差が出てきてしまうのかなというのが、ちょっと心配なところかなと思います。

市長

私自身、一定程度、教育委員会や自治体が主導する制度にしないといけないと思います。現状でも、クラブチームは存在しており、それと変わらない状態では、部活動の地域移行という改革の意味をなさなくなってしまう。

学校が、間接的な関わりであったとしても、子どもたちの教育のためにどのように関わっていくのが重要です。地域移行になったときに、現在の保護者が子どものスポーツ等の技術を向上させるクラブチームの存在を学校教育の中でどのようにとらえるべきなのか等の非常に難しい問題があります。

一番いいのは共存共栄ですが、経費負担一つ見ても非常に大きな課題があるのかなと思いました。

大西委員はサックスの指導者をやられていることですが、地域の特性に沿った地域移行を考えたときに、御殿場市というイメージからして、何か思い浮かぶものはありますか。

大西委員

地域のクラブチームは市内市外、結構な数ありますが、レベルの差が大きいということをよく聞きます。これに伴い、月謝等の経済的な負担金額の差も大きくて、経済的格差が如実に表れているようです。

御殿場総合スポーツクラブが実施している取り組みに、「ゴスポ」というものがあります。これは、多彩な種目を多世代で楽しめるプログラムを年間定期開催することにより、御殿場地域の生涯スポーツおよび競技力向上を促進させる目的のものです。

市の施設を利用する講座のため、比較的安価で運営されているようです。保護者の経済的な負担については、市が関わって市民のスポーツ環境を整えていくことが重要かなと思います。

市長

はい、ありがとうございました。

勝又委員のご発言に、トップアスリートの育成についてあったかと思います。クラブチームの活動について、課題がいくつか出ましたが、学校のチームとクラブチームが混在した形式の大会が年にいくつかございます。

クラブチームを強くするためには、良い選手が必要で、各学校から優秀な選手が1人2人とクラブチームに取られてしまう。そうしたときに、学校としては、部活動のチームとして、盛り上がりが欠けてしまうという現状を感じております。

学校の部活のチームと、クラブチームの両立という観点から、勝又委員にご意見いただきたい。

勝又委員

現在も活動しているかどうかわかりませんが、昔、市子連でソフトボール大会がありました。そのときに各学校からチームを出して、学校対抗の形で大会を開催しました。その中にクラブチームが参戦をしていました。そのクラブチームの中には、小山町の子どもがいて、御殿場市の市子連主催の大会にクラブチーム、ましてや小山町の子が参加してよいのかという問題が生じました。

この際、クラブチームとして参加しているのだから、どこの地域の住んでいる等は無関係なく、参加していいですよ、ということになりました。実際に大会が開催されると、圧倒的なクラブチームの強さがありました。

大会後に、出場した選手が、学校でもソフトボールをやりたいという話になり、学校での活動が盛んになり、クラブチームはクラブチームで、大会で見つけた優秀な子をスカウトするということもあって、そういう結果を生み出すこともあります。ですから、クラブチームという存在も重要だと思います。

市長

ありがとうございました。

地域移行になったとき、スポーツも文化活動も同様ですが、中体連の位置づけはどうなるのでしょうか。

学校教育課指導主事

中体連につきましては、昨年度からクラブチームが団体競技に参加可能となりました。

た。また、今年からは個人種目へのクラブチームからの参加も許可されています。

出場枠の説明をしますと、野球の例では、県大会への出場枠が 32 チームあります。そのうち 31 チームは各地区の代表中学校であり、同じ地区のクラブチームは県内の他クラブチームとの試合に勝利した 1 チームのみが県大会への出場が許可されるというルールがあります。

実際に今年もそのルールを維持しています。中体連の結果を見てみると、クラブチームが優勝した種目もある一方で、ほとんどの種目には学校部活動のチームが参加しているという状況です。

市長

ありがとうございました。

中体連そのものの存在感というか、クラブで競技を極めようというチームは一部しか出ないということは、実際の中体連は、基本的にクラブチームではないチームが多いということですよね。それがスポーツの本質的な振興につながるのか、子どもたちのスポーツの熱が盛り上がるのか、そういう問題もあります。

競技者として高いレベルの子たちは、どちらかといえば、クラブチームに入り、残された人のチームで中体連をやるのかっていう、中体連のあり方自体が問われるような、そういう大きな問題があると思います。

中体連の在り方にも変化が生じている中で、学校教育の在り方として、部活動の指導方法については、今後どのような変化があると思われますか。

学校教育課主席指導主事

学校教育では、子どもの主体性や、主体的に学べる環境作りというのを進めておりますので、部活動も昔のような顧問の先生が一方的にこれをやりなさい、あれをやりなさいという指導の形から、子どもたち自身が練習メニューを考え、目標を設定して、それに向けて努力していくというような指導方針に変わってきてつつあるかなと思います。

市長

はい、ありがとうございました。いまのお話を聞いて、渡邊委員いかかがでしょうか。

今年開催したオリンピックでは、従来競技種目ではなかったブレイキンや、スケボーなどがオリンピック種目になるのだと、感心しながら見ていました。

先生方の中には、いろんなことやってこられた方たちがおいでになって、今までは種目に先生と生徒合わせていたのを、違う発想で、先生が得意とするところに生徒さんの希望が合致すれば、そこに種目を合わせていくことも必要なのではないかと思います。

ホップステップジャンプがあるとしたら、ホップの部分は学校で対応し、その中で光るものがあるとか、もっとやりたいというお子さんに対しては、その次のステップで、クラブチーム等で指導していただくという流れができると良いのかなと思います。

御殿場市として指導の面で手助けするとか、経済的に支援する目的の助成金制度があれば、部活動の次のステージといいますか、もっとやりたいというお子さんたち、例えば、東部代表とか県代表のところまでの活動を感じたいというお子さんに対しては、次のステップのへのチャンスを与えたいです。

学校としては、学校にいる４時半までの時間に対し責任を持ち、その後の時間や土日に対しては、違う組織で責任を持つという形式が一番良いのかなと思います。その形式で対応する場合には、情報の共有が最も重要だと思います。

今は、対面でなくても情報の共有ができるので、そういうことをフルに活用しながら、それぞれの生徒さんの可能性とか、あとは希望するところに、必要な指導と支援が行き届けばと思っています。

ありがとうございました。

市の支援についてお話をいただきました。現在の部活動が任意制となっている中で、部活動の地域移行というシステムを作っていくならば、その目的は、最終的には子どもたちがすくすく元気に育つことでなければなりません。

部活動には、教育的な効果はあると思いますので、自治体による公的な支援が必要です。国がどう補助するかわかりませんが、自治体がある程度支援する、全部市が負担するかどうかは別として、ある程度基準を決めて支援することは、当然のことだと思っています。

御殿場の特性に合わせた地域移行が一つのテーマになると思います。西中学校の吹奏楽部は、非常に恵まれた環境の中で、全国大会へいく結果を出し、大勢の新入部員も入り、部活動が盛んに行われております。

ハンドボールのお話がありましたが、地域の熱心な方が指導者として、しっかりとした受け皿になって、それがある程度大規模になり、全国大会にいくような結果を出して

いるという状況だと思います。

御殿場の特性を考えたときに、よく話題になるものは武道です。空手も非常に盛んに行われております。武道というのは、礼に始まり礼に終わる、という非常に教育的にも意味のあるものですが、社会的には受け皿の人材不足という非常に大きな課題がある中で、御殿場市は人材が豊富であり、世間とは逆にあるのかなと思っております。

こうした地域の皆さんの力を使うと、子どもの選択肢も広がり、教育的にも非常に良いのかなと思います。御殿場市においては、その他のスポーツでも、そういう受け皿は結構あるのではないかという認識を持っています。

まだまだ、皆さんの意見を聞いていたいのですが、時間もありますので、教育長の意見をお聞きしたいと思います。

教育長

少し前の説明で、今の部活動の状況について触れました。無所属が8%、外部団体への参加、そして学校の部活を希望する生徒と様々です。生徒たちは様々な要素を期待して部活に参加しています。それらの期待や想いを尊重し、大切に考えていきたいと思えます。

それと同時に、生徒たちが部活動に何を求めているのか、これもまた重要な視点です。「勝つ」ことだけが全てではなく、そこには他にも様々な要素が含まれているはずです。

生徒数の減少、自分がやりたい種目が無い、チーム内の問題など、様々な課題が出てきています。そういった背景を踏まえつつ、生徒たちが自分たちのやりたい活動にどう取り組めるか、保護者の皆様とともに考えていきたいと思えます。

一つの部活だけではなく、複数の部活を合同で運営するアイデアもあります。そういったことから進めていこうかなと思えます。

また、先生方の負担についてのお話が出ましたが、部活動のガイドラインを設けておりまして、部活の時間を整理しています。平日の時間や所要日数などについて、先生方がご家族との時間も大切にできるように、ある程度の制限をかけさせていただいています。その上で、生徒の皆さんが自分の好きなことに打ち込める時間もしっかり確保しています。そんなバランスの良い形が芽生えるよう、委員会も頑張りたいと思えます。

市長

ありがとうございました。

今日、皆さんから出された意見や課題は大きなものから小さなものまで、非常に多岐に渡っています。これら全てを一つの方向へ整理し、最終的な方針を決定することは容易ではないかもしれませんが、しかしながら、令和9年度を目安に、まずは動き始めるこ

とが大切だと考えています。

今日の話し合いで出てきたテーマや意見は、今後も重要な課題となります。その中には、国レベルでの問題も含まれているかもしれません。それらの議論を通じて御殿場らしい地域移行が何とかスタートできればなと思っています。そのためにも、今後も皆様のご協力をお願い申し上げます。

②学校と地域等の連携協働のあり方

市長

次のテーマである「学校と地域等の連携協働のあり方」について、皆さんの意見をお聞かせいただきたいと思います。渡邊委員からご意見をよろしくお願いします。

渡邊委員

よろしくお願いします。

地域にはそれぞれ固有の魅力と個性がありますよね。そんな地域性を生かした学校と地域とのつながりが、ここ数年で深まってきたなと感じています。学校だけが子どもたちの学びの場ではなく、地域全体が学びの場という意識が強まってきた気がします。

地域の人々が学校で活動するに、守秘義務といった制約があるものの、例えば給食の手伝いや子どもたちとの遊びの時間、学習のサポートなど、様々な形での協力が考えられます。これらの具体的な活動は、それぞれ時間と手間がかかりますが、地域の人材を有効活用することで、それらを克服し、学校と地域が協働する形態を作り上げていけると 생각합니다。地域の人々にとっても、子どもたちがより良い教育を受ける場や機会を提供できる一方、学校側にとっても地域の手を借りる機会が増えるという、お互いが協力し合う関係が生まれると思います。

また、子どもたちの休日の居場所を作ることの一つの大切な課題だと思います。お年寄りのサロンや赤ちゃんのサロンといった、地域でやっているような方向性で一緒に考えていけたらいいなと思います。

市長

ありがとうございました。では、勝又委員お願いします。

勝又委員

よろしくお願いします。

「地域」という言葉の考え方ですが、協議事項1で説明されたクラブの事例でいう「地域」がチーム規模、つまり街全体やそれを超える広さの意味を含む一方で、今回指す「地域」は学校区であると考えております。

しかし、学校区自体も学校ごとに異なるため、一つの学校区に属する地域の数も異なります。一つの学校区が一つの地区だけで成り立つ場合、活動の進行や子どもたちの協力、ボランティア活動等はスムーズに行われると思いますが、例えば 50 区域からなる学校区を考えると、その中には 10 以上の区が存在するわけです。

その結果、各区間の繋がりには皆無で、各区が独立して活動することになると思います。コミュニティスクールが設立された場合、全ての区から均等に委員を派遣し、どのような活動を行い、それがどのように学校に影響するかが問われます。

また、特にコミュニティスクールの場合、学校が地域から何を期待しているのか、地域側が学校に何を求めているのかが明確になっていない部分があると思います。私自身は常に中学生たちに対してボランティア活動への参加を 2 割増し、あるいは 2 倍増しで校長へ要請し、ボランティア活動をお願いする形を取ってきました。しかし、実際に参加するのは一部の生徒だけで、更にボランティアの数自体も限られています。

そのため、参加する子どもとしない子どもとの差が生じてしまいますし、地域内にいくつかの区が存在する場合、その区自体の活動により差異が生まれます。これに関与する子どもや学校も、自ずと差異が生じてしまいます。全員が同じような活動をしているわけではなく、こうした問題を今後どのように考え、取り組んでいくかが一つの課題点となると思います。

コミュニティスクールが何を指すのかは、まだ見えてこないため具体的には何とも言えません。しかし、幸いにも、御殿場市は子ども条例を作り、社会総がかりで子どもたちを育てていくという目標を掲げてきましたし、その活動も現在進行形で行われています。コミュニティスクールがどのような形になるかはまだわかりませんが、子ども条例は既に先行しており、その活動も進んでいますので、子どもたちを優しく見守り育てていくことは可能だと思います。

市長

ありがとうございました。では、大西委員お願いします。

大西委員

現在、私たちは超高齢化社会に突入していますが、最優先すべきは防犯活動だと思います。介護家庭も増えてきており、避難所への移動や歩行困難者の支援も出来ない高齢者家庭は、地域の中学生に頼らざるを得ない状況です。これは以前から認識されていました。私が 6、7 年前に区長をしていた際も、地域の防災についての話がありました。早急に体制を整え、南海トラフ対策に取り組んでくれることを望んでいます。そのような対策も地域づくりの一環として優先されるべきだと思います。

市長

ありがとうございました。では、杉山委員お願いします。

杉山委員

元々高根地区は地域と子どもたちが一緒に活動する機会の多い地域でして、「たかね森っ子クラブ」や「どんたく」は、全ての中学生在がボランティアとして参加し、学校行事として活動しています。これらは地域から学校へ、学校から地域へという双方向性のある取り組みが可能で、すでにうまく機能していると感じています。

現在、地域学校協働活動として学校支援サポーターを広く募集しています。読み聞かせ、クラブ活動や授業の支援、見守り活動、プール授業中の見守り、環境整備活動などを実施しています。このサポーターは、保護者だけでなく地域の方にも広く募集しています。例えば郵便局など地域内に掲示して「高根小中学校の支援サポーター募集中」のポスターを広めています。

自分の孫が小学校に通っているといったケースもあり、学校の様子を直接見る機会が無かった人たちが、この活動に参加することで学校の内部の様子を見ることができ、子どもたちの掲示物を観ることが楽しみになっているようです。

しかしながら、孫が学校に通っている方は参加しやすい一方、そうでない場合は参加を躊躇する方もまだいると感じています。そこで、個人ではなく、老人会や敬老会などの団体としての協力を呼び掛けていくことで、より多くの方が参加してくれるのではないかと考えています。

市長

ありがとうございました。では、長田委員お願いします。

長田委員

学校と地域の連携協働ということで、具体的に川島田区の夏の活動について話をしたいと思います。

こちらの取り組みは、「絆作り地域作り」を目指しており、「ニコニコ子どもセンター」という名前で活動を行っています。この活動は特に川島田区に住む方だけでなく、地域の小中学生に未来への希望を持つきっかけを与え、今を楽しむ機会を提供することを目的にしています。夏休み期間中の5日間に開催しており、6年前に初めて開設され、去年は新型コロナウイルスの影響後初となり、今年で3回目となります。

この活動が開催される背景には、夏休み期間中に保護者が不在になること、家でのゲームやデジタル機器の利用頻度が多くなり、体を動かす機会が減ることや、共働きの家庭では日々の不安と共に子どもを家に残すことが多い実情があります。

こうした中で、「ニコニコ子どもセンター」は子どもたちが体を動かす場や、ゲーム機以外で遊ぶ空間を提供します。大人たちが見守る中で安心して遊びができ、地域の人との交流の機会も作り出します。また、中学生が参加することで彼らに憧れや繋がりを感じる機会を作り出すことを目指しており、これが取り組みの目的となっています。

今年の参加人数は、小学生が 319 名中学生 95 名、大人が 87 名、全部で 501 名です。

この取り組みは、主催者を中心に多くの方が協力して進められております。活動に関わっている皆さんは地域の民生委員、地域福祉委員、そして区長のOBや、教員のOBの方々、さらに地域の協力者だったりします。

また、この活動では昼食も提供しています。交代でランチを作り、メニューはカレーライスかハヤシライスとなっています。これは地域の協力者の方々のおかげで成り立つ活動であり、その助けに感謝しています。

この取り組みが素晴らしい理由は、地域に密着した活動であり、そこで生活している人々の生活をより良くするための活動を実際に地域の人々が中心となって進めているという点です。これが一番の魅力であると思います。

また、この取り組みで特に喜ばれているのは、子どもたちの縦のつながりが形成できたことです。小学 1 年生から中学 3 年生までの子どもたちが一緒に楽しみながらドッジボールを行い、中学生がリーダーシップを取って進行していく様子は、大人たちが子どもの頃に仲間や近所の人たちと遊んだ経験を思い出させます。卒業した中学生が高校生になってもボランティアとして引き続き参加してくれていて、そこが中学生の居場所になっているということは、素晴らしいことだと思います。

ここで一つ、取組に対するアンケートの回答を紹介させていただきます。中学生から「ニコニコ子どもセンターは他学年や大人の方との交流の場だと感じます。小学 1 年生などとの交流の機会がなかなかなく、ここで初めて経験することもありました。大変なこともありましたが、とても良い経験をすることができました。ありがとうございました」という内容です。

少子化や高齢化、核家族化が進む現代社会で、地域未来を支える基盤作りは非常に重要な課題となっています。未来の地域コミュニティを支える基盤作りのための取り組みは、大変価値のあるものだと感じています。これから先、いろんなところに波及させていくべきではないかと思い紹介させていただきました。

市長

今日は多くのご意見をいただくことができました。本日の委員の皆様のご発言を聞いていると、地域と学校に在籍する子どもたちとの交流を通じて子どもたちを育てていくという発想があると思いました。各学校や地域ごとに特色があり、それぞれに合った方法で考えることが重要であるという認識が強くなりました。

働き方改革、教職員の負担軽減といった問題がありますが、地域と共に子どもたちを育てていくことは非常に重要であり、これはまさに子ども条例の本質であると思います。

教育長から一言お願いします。

教育長

コミュニティスクール導入は、学校だけでなく地域全体で子どもたちの育成を行うという考え方から来ています。一般的に学校というと、質の高い教育を提供するというイメージが強いかもしれませんが、しかし、これまで学校で行われてきた「どのような子どもを育てるか」という問いは、地域と共に考えるべきだと私は思います。

地域の皆さんと共に、どのような子どもを育てるのかを考え、学校だけでなく地域全体で共有しながら進めることが重要だと思います。それにより、新たな可能性が見えてくるのではないのでしょうか。新たなアイデアや取り組みが生まれるかもしれません。

コミュニティスクールというのは、学校と地域が一緒になって子どもたちの育成を考え、互いに意見を出し合う場なのです。これまでは学校が一方通行に「こうしてほしい」「こう考えてほしい」と伝える形が主でしたが、それだけではなく地域の皆さんの意見も大切にします。その共有の認識の中で、地域の子どもたちを育てることがコミュニティスクールの目指すところです。

地域の皆さんの声が反映され、学校と地域が一緒になって子どもたちを育てるという考え方が、コミュニティスクールの導入の背景にあります。

市長

コミュニティスクールは、地域の皆さんとのコミュニケーションを通じて子ども達を育てる活動の一つです。しかし、名称が特殊な固有名詞であるためか、一般の市民にはあまり知られていないかもしれません。内容は特別なものではなく、既に実施している地域もあることも含めて、教育委員会が市民に対してPRを行い、意味を広めることが大事だと思います。活動に賛同する人が増えれば、その後の活動を円滑に進める事が可能であり、地域と子どもたちの交流を深めることに繋がると思います。

私自身、御殿場市長として、市長会等に参加することで、御殿場市が地域との関わりが深いことを実感しています。

お年寄りが子どもたちを育てることで、子どもたちは学習する機会を得ることができ、その結果、お年寄りも元気で健康になることができる。コミュニティスクールは、そんな理想的な関係を実現する取り組みであり、地域との連携の一つの手段であり、新たな突破口を作り出すための一つであると思います。

現在のところ、コミュニティスクールという制度はあまり知られていないため、学校側から働きかける形になってしまいがちだと思います。こういった点が、人々には堅苦しく映ってしまうかもしれません。

地域防災訓練などを見ていると、中学生たちは地域の人々を誘導したり避難所まで案内したりするなど、一生懸命に活動していますが、コミュニティスクール制度の一部として、こういった活動が自然と行われる環境を整えていくことが重要です。

それが当たり前になることで、学校側も地域側もお互いに頼り合うことが自然となり、更なる連携が生まれると思います。

まだまだ地域で出来る事はたくさんあり、可能性がいっぱいあると思います。

教育長

地域との連携という部分で言うと、やはり先ほど杉山委員が言った双方向の関係性が大事なのだと思います。学校側だけが依頼をするのではなく、地域と協力し、地域からの要望なども積極的に取り入れるべきだと考えています。それにより、子どもたちにとって有意義な学びが生まれます。これを大切にしていきたいと思います。

学校は、地域の一員であり、地域のコミュニティを作る一端を担っていると考えています。子どもたちを育てる過程では、多くの人々が関わります。その参加者たちが喜びや達成感を感じたり、またその活動を通じて新たなつながりを作ったりすることができます。

現代社会では、人と人との関わりがだんだん薄れてきたとか、そういった暗い話がありますけれども、子どもたちを介して、大人たちが関わっていただくと、コミュニティが活発になってくるのかなと思っています。その点でも、コミュニティスクールのPRを一生懸命頑張りたいと考えております。

市長

ありがとうございました。

御殿場市には数多くの素晴らしい公民館が存在しています。それぞれの地区の、あるいは地域全体の人々がこれらの公民館を活用して集まることにより、さまざまなコミ

ユニケーションが生まれ、活気ある場となると考えております。子どもたちとの交流や、特定の趣味に興味を持つ人々が集まるなど、公民館はそれを実現するための「ハード的」な場所として存在しています。

そのため、これらの公共施設を最大限に活用することを提案し、地域の皆様にもご検討いただきたいと思います。

まだ他にも言いたいこともあると思いますけれども、いろんな意見を出していただきましてありがとうございました。

これを生かして、いろいろな政策に結びつけたいと思います。今日はありがとうございました。

5 閉会

教育総務課長

ありがとうございました。

今回の総合教育会議の議論を踏まえた上で、今後の施策を展開する際の参考にさせていただければと思います。

本日の協議につきましては以上となります。

市長、教育長、そして教育委員の皆様、本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

以上をもちまして令和6年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。

午後 4時00分 閉会
